

# 地域ニーズに合わせたオーダーメイドの「出前講座」の提供をめざして

☞**取り組み内容のポイント**☞ 地域ニーズに寄り添う「出前講座」を実施するために、当センター内の地区担当相談員（以下、地区担当相談員）が窓口となり、ニーズ把握を行い、講座終了後も個別相談がしやすいよう、顔の見える関係を作る。

静岡県

社会福祉法人

聖隷福祉事業団

〒430-8558 静岡県浜松市中区住吉 2-12-12

TEL：053-413-3300 FAX：053-413-3314

## 法人創立年

昭和5（1930）年

## 法人実施事業

①経営施設数合計：120施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

特別養護老人ホーム…15、保育園…10、訪問看護ステーション…15、有料老人ホーム…11、病院…6、健診施設…3、介護老人保健施設…3、軽費老人ホーム…3、その他…54

## 法人の理念・経営方針

<基本理念>キリスト教精神に基づく「隣人愛」

<使命>・いのちと尊厳のために

・利用される人々のために

・地域社会とともに

・未来を築く

・最高のものを

## 取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

①定款への記載：記載していない

②事業報告・計画への記載：記載している

## 取り組みを実施している施設の概要

【施設名】：

浦安市高洲在宅介護支援センター

〒279-0023 千葉県浦安市高洲 9-3-1

TEL：047-382-2943 FAX：047-382-2435

【施設種別及び利用定員】：

在宅介護支援センター、居宅支援事業所

## 活動内容

◇活動開始年：平成23（2011）年4月

◇活動の対象者：

浦安市の埋め立てエリア（中町・新町）に住む高齢者が対象

高齢化率 7%～27.5% と地域差が大きいエリア

◇活動の頻度・時間

（平均月5～6回 1回あたり1.5時間）

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

浦安市では、教育委員会生涯学習課を中心に市民向けに「出前講座」を展開していた。中でも介護予防・介護保険に関する講座は、介護保険課（地域包括支援センター）の担当であり、当センターへも依頼が年に数回程度あった。また、在宅介護支援センターの業務の中に介護予防教室があり、平成22（2010）年度までは年に12回、65歳以上の高齢者を対象に公民館等に出向き教室を開催していた。平成23（2011）年度からは市の方針により年6回となった。一方、同年度から地域包括支援センターが2か所に増え、市内は大きく2分され、当センターの相談エリアも拡大することとなった。その事により地域活動支援事業の転換期を迎えていた。そんな矢先、3月11日の東日本大震災に遭い、浦安市も液状化による被害が大きく被災地となった。まさしく当センターの相談エリアが被災した。震災により各地区で共助意識が高まる中、具体的にどう形にしていくのか、当

センターにどのような支援ができるのかを模索し、一つの場所に集う高齢者に、様々なメニューを提案することにより、地域ニーズに合ったオーダーメイドの「出前講座」を実施することとなった。

## 実施内容

平成23（2011）年度は、エリア拡大に伴い、老人クラブ30か所、支部社協4支部、民生委員32人へ地区担当相談員が定期訪問を重ね、在宅介護支援センターのPR活動を進め、顔の見える関係づくりをしてきた。震災後ということもあり、地域全体が連携の重要性について模索していたこともあり、講座件数の増加につながった。

平成24（2012）年5月、前年度実績をもとに、出前講座メニュー表（19講座）作成し、関係機関や関係者に配布した。

<出前講座メニューの例>

- ・介護保険 基礎編 ～困った、介護が必要となった！～
- ・365歩のマーチ体操 ～亀有発 両さん体操～

- ・認知症予防 ～物忘れと認知症は違います～
- ・フットケア ～正しい足の手入れで快適生活を～
- ・呼び寄せ介護 ～もれなく呼び寄せチェックリスト差し上げます～

元気幸齢者が良き支援者となってきている。(注；当センターにおいては、高齢者ではなく幸齢者と表す)

### ◎活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

### ◎今後の展開

1. 出前講座のメニュー表を作成するにあたり、職員一人ひとりが「自分たちに何ができるか」、「担当地区ではどのような内容が求められているのか」「高齢者に分かりやすい表現は」など、これまで実施してきた出前講座をもう一度振り返ることにより、各地区で選択することができる出前講座メニューとして可視化することができた。
2. 配布した関係機関や関係者からは、「こういうのが欲しかった」「とても見やすい」「さっそく出前講座を検討します」などの声が聞かれ、平成24(2012)年5月以降は、5月：3件、6月：7件、7月：11件と出前講座の依頼が増加している。また、老人クラブからは「毎月定例会に来て欲しい」「次はこの講座にして欲しい」等の要望も増えてきている。講座のイメージができ地区ごとのニーズにより、自己選択ができるようになった。
3. 団塊の世代が多く“学びたい”“知りたい”“伝えたい”のツボに火を付け、熱心にメモを取る姿やレポートを提出して下さる方、発言する方も多く、職員もそれに感化され講座前は体操を練習したり、資料を作成するにあたり最新情報を入手したりと今まで以上にモチベーションが上がっている。
4. 介護予防の意識が高まることで、地域の中で共助の力となり、民生委員等ご近所からの相談が増えてきている。

ニーズには一人ひとりの抱える個別ニーズだけでなく、地域としてのニーズもある。地域の特性や社会資源の状況によって異なるが、住民が暮らす環境も含めてニーズを捉えていくことが、効果的な支援につながると改めて気づくことができた。

また、ニーズ把握は専門職だけで行うものではなく、地域住民の協力による場合もある。地域住民が問題意識を持ち予防に取り組むことで、早期発見、早期対応が可能になってきている。地域診断をしっかりとすることで、より地域ニーズに合ったオーダーメイドの「出前講座」が提供でき、地域の共助機能の強化と当センターの機能向上につなげたい。

### ◎主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数〔4〕名  
(職種等：介護支援専門員(介護福祉士・看護師)主任介護支援専門員(介護福祉士)住環境コーディネーター、フットケアワーカー、転倒予防指導者、キャラバンメイト)
- ・取り組みを実施している施設の事業規模(平成23(2011)年度決算の事業活動収入)〔24,992〕千円  
※法人全体の事業規模(同上)〔92,437,111〕千円



365歩のマーチ 亀有発 両さん体操



出前講座 メニュー表



フットケアの一場面



足型を測定し、身体のバランスとアーチの形状等を観察



家族介護者教室「呼び寄せの心得」の様子